

父になって十年

●今年の十二月で、第一子である長女が十歳になる。十年という、長いように感じるが、私からするとあっといふ間だった。この十年間、思い返せば、色々なことがあった。十年前のことではあるが、今でも鮮明に思い出せる。長女からすると覚えていない出来事かもしれないが、私にとっては、どれも大切な思い出である。

●ここで、長女が産まれてからの十年間を振り返ってみたいと思う。私は、独身の頃、自分は子育てには向いていないと思っていた。朝も満足に起きられない、食事の用意も面倒くさがって毎回外食。部屋の掃除は気が向いたときだけ行う。そんな自分にとさえ満足にできない者に、子どもの世話が始まるはずないと考えていたからだ。しかし、いざ子どもができる、そんな悠長なことは言ってもいられず、とにかくやるしかなかった。妻に教わりながらのおむつ交換や沐浴、ミルクを作って飲ませ、子どもが夜中に起きれば、あやして寝かしつける。子育ては親の務めであり、他のお父さん・お母さんは当たり前のように行っているのだから、言い訳できないと思いつつも、やはりこの生活が続けるのは厳しいと心が折れそうになった。しかし、子どもの笑顔を見ていると、そんな思いも吹き飛んだ。

●そんなこんなで、この生活を続けていく

と、次第に慣れていき、自分の心に余裕が出てくるようになった。また、子どもも少しずつ成長していくので、その変化を見つけることが楽しくなってきた。特に、子どもが少しずつ話せるようになってくるのは、日々の楽しみになってきた。

●そして、長女が幼稚園に入園する年になった。幼稚園は、家から少々離れた場所にあったため、幼稚園のバスでの登園だった。そのため、毎日バス停まで長女を連れていくことになった。仕事柄、

夜に子どもと接点を設けることが難しかったので朝ぐらいいと思ひ、毎朝、子どもの見送りを行ったバスが来るまでの二人きりの時間。幼稚園の友達との出来事、幼稚園の行事に対しての感想、夏

休みにデイズニードに行きたいから連れていってほしいなど、いろんな話をした。そのときの私の対応は、今思い返すと、正直、単調だったと思う。そんな私に対して、長女は、嫌がりもせず、楽しそうに、いろんな話をしてくれた。長女からすれば、たわいもない時間だったかもしれないが、私にとっては、大切な時間だった。

●長女は現在、小学四年生で、日々、友人と遊ぶことに一生懸命である。私としては、遊びと同じくらい勉強にも一生懸命に取り組んでほしいと願うが、長女にはあまり伝わっていないみたいだ。そこはまあ、しょうがない。とりあえず、明るく元気に育つ



てくれているだけでも、ありがたい。このまま、大きなけがや病気にかからず、元気に育つことを切に願う。

(矢上)

ジャンナーの法則をうち破れ

●最近、悲しいことに、歳を感じる機会が多くなった。例えば、大学の同期や会社の同期の結婚、筋肉痛が遅れてくる、背脂たっぷりのラーメン屋さんに頻繁には行けなくなつたなど、そう感じる場面は多々あるが、日々感じるのは、学生時代に比べると時間の流れが今の方が明らかに速いということだ。小中学生の頃は一日一日がすごく長く感じて、早く大人になって自由になりたいと思っていた。今ではその逆で、一日

が終わるのがとても早く、これ以上老けたくないと考える毎日だ。そして誕生日を迎えるのも、自分がまた一歳老けたことを実感するようになり、年々嬉しくなくなつてしまった。この記事を読んでいる生徒さんには実感のないこと、私と同世代以上の方には共感していただける内容であることと思う。なぜこのような『体感時間』の差が生まれるのか。気になったので調べてみた。

●この現象を説明するものとして、「ジャンナーの法則」というものがあるようだ。その法則とは「人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例する」という考え方で、一九世紀フランスの哲学者、ポール・ジャンナーが発案した法則である。例えば五

歳児にとつての一年はこれまで歩んできた人生の五分の一という割合なのに対して、五〇歳にとつての一年は人生のわずか五〇分の一でしかないという理論。その理論に基づいて算出すると人生を八〇年としたとき、体感では一九歳で人生の半分が終わってしまうということだそう。ということからは、私はもうすでに体感としてはとっくに人生は折り返してしまつたということだ。やはり年々体感時間が早いと感じるのは間違ひではなかつたようだ。

●では、なぜこのような現象が起きるのか。子どもの頃は、毎日学校に行き、生きていくだけで新しい発見や学びがあるものだが、大人になるとすでに知っていること・ものの中で過ごす時間が増える。同じことを繰り返す生活に脳が慣れると、「特に新しいことがない一日だった」として記憶にも残らず、あつという間に時間が過ぎたという感覚になつてしまひやすい。つまりは人生においての「慣れ」がこのような時間の速さを生むのだ。

●ならば、人生の体感時間を伸ばす方法はないのだろうか。おそらく答えは一つであろう。「日々のときめきを増やし、毎日を充実させること。」もう少し具体的には「新しいことにチャレンジする。」「学ぶことを増やす。」

●子どもの頃のようにさまざまなおもしろ味を持ち、新しい体験をし、思い出や経験の詰まつた毎日を過ごせば、一日の時間を長く感じる事ができる。これに尽きるのではないだろうか。

●つい先日、ソフトボールを試合形式で行うイベントに参加した。それまでソフトボールの経験が無い私にとつては、とても新鮮で久しぶりに充実した一日になった。私にはこういった刺激が必要なのだと強く感じた。



●このような刺激を自分を与えるために、興味のある分野では何があるか考えてみた。ここ数年いつかチャレンジしようと思っていたが、実現できていないことがいくつもある。その一つがダンススクールに通うことだ。もとより音楽が好きだし、踊るといのは体を動かすことにもなるし、さらにはストレス発散にもなるので健康に良く、良いこと尽くめだと思う。たまにYOUTUBEの動画を見て流行りのK-POPの曲に合わせて、見よう見まねで踊ることはあるが、自分の踊りを録画しその動きを見返すと、まるで盆踊りのようになってしまっている。やはりきちんとプロに教わりたいたいものだ。

●人生はいくつになってもチャレンジすることが出来る。刺激のない日々を脱却するべく、まずはこの一点から始めてみようと思っている。

(小澤)

集団知③

●集団知(知っている、知らないに関わらず、集団として受け入れた価値観・判断)の続きである。

●四月号①の「勉強法を伝え切れなかった後悔」

の流れで、『古文単語』は毎日一〇分(五分でも)ほぼ完全に記憶される。」を具体的に説明しよう。

●高校生が使っている古文の単語帳には、ほとんどが「索引」を載せている。次のようなもの

・あいなし
 なんとなく・つまらない
 ・明かし
 明るい
 ・あかず
 飽きることがない・満足しない……

●これが非常に役に立つ。使い方は次の通り。

〈1〉赤のチェックシートをかぶせて「あいなし」の意味を思い出す(一秒で)

〈2〉思い出せても思い出せなくても確認

〈3〉合っていたら次へ

〈4〉ダメならかくしてもう一度合っていたら次へ

〈5〉「明かし」の意味を思い出す(以下同じように繰り返す)

●たったこれだけである。創学舎で指定している単語帳の索引は二十一ページなので、一日三ページやると二週間で一周できる。因みに、「一秒」にしているのは、「一秒」で出ないものは九〇%、「五秒」かけても出てこないからである。「五秒」かけるなら「一秒を二回」やったほうが脳に刺激がいつて記憶が強くなる。

●少し寄り道をするが、単純な記憶に関して、脳が嫌がるのが、三つあることを紹介しておきたい。それは、「覚えること」「思い出すこと」「迷うこと」である。だが、生徒のほとんどは、

このことを知らず(誰も教えてくれないから仕方ないが)、この三つをやってしまう。だから、脳が疲れるし記憶も進まず嫌になるのだ。

●そして、実は日本語を母語とする人は、ほぼ全員「単純な記憶に関してモデルとなる経験」をもっている。何か? 「九九」である。小学校二年生ぐらいで、ひたすら暗記させられたし、したはずである。出てこないとき、思い出すまで待つのではなく、すぐ答を確認してくり返したはずである。そう、「九九」は単純な記憶のモデル、最高のモデルだったのだ。

●古文単語に話をもどそう。これも本来は声を出してやるとよい。そのほうが脳への刺激が増えて、効率がアップするからである。

●勿論、その単語の本質的な意味は大事である。「あはれ」と「をかし」はどちらがうのか? 「山の端」と「山際」の違いは? でも、そういったことは、やっていくうちに分かってくることで、まずは、単純でいいから、意味がすいすい出てくるようにすることが大事である。

●高三生には紹介しているが、やる人とやらない人がいる。自分なりのやり方があって身についている人はそのままよい。一方で、古文単語をいつまでたっても記憶できない人はどうするか? 頭の痛い問題である。当面はねばり強く説得を続けるしかないと思う。スマホの時間を一時間以内にするよう授業の度に言って一年かかる。英単語を短時間で五百とか六百とかやらせるのに一年かかる。古文単語をやらせるのにもきつと時間がかかるだろう。でも、古文単語をまだ記憶していない高三生よ、どうするつもりだ? 他に代案はあるのか? (以下次号)

(小林)

入場無料 首都圏進学フェア2022 in 千葉

フェア実施内容

- 各学校の入試担当者による面接形式の進学相談会
- 学校案内配布
- 不登校相談コーナー(千葉会場)
- 入試関係資料配付
- 総合進学相談コーナー(総進図書)
- 留学相談コーナー(NPO法人フレンズインターナショナル)

※木更津会場は除く

柏会場 柏の葉カンファレンスセンター
(三井ガーデンホテル柏の葉)
〒277-0871 千葉県柏市若柴178-4 柏の葉キャンパス148街区2

交通アクセス ●TX(つくばエクスプレス)「柏の葉キャンパス」駅より徒歩2分
 例年、午後の時間帯が比較的空いています。

7月30日(土)

11:00~16:00 (最終入場 15:30)

主催/ NPO法人電子進路応援センター
 共催/ 千葉日報社
 協賛/ 千葉県・千葉市・成田市・柏市・木更津市・千葉県教育委員会・千葉県私立大学協会の会
 千葉県高等学校協会・千葉県中学校協会・千葉県私立高等学校協会
 千葉県教育研究会進路指導部会・千葉県高等学校教師会
 千葉県PTA連盟協会・千葉県私立大学協会連合会
 協賛/ 金澤・NPO法人フレンズインターナショナル
 運営協力/ 総進図書
 協力/ 声の教育社・日本私学連盟・大学連携

問い合わせ先 NPO法人電子進路応援センター TEL: 047-447-7859
 携帯ホームページ http://www.just.st/302728/

総進図書